

平成 27 年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業（二次公募） 採択課題一覧

事業名	代表事業者	共同実施者	概要
水素循環型社会実現に向けた燃料電池ゴミ収集車の技術開発・実証	(株)フラック トフィールド	(株)早稲田大学アカデミックソリューション、(株)テクメイション	従来の標準的なディーゼルゴミ収集車に対して燃費 1.75 倍程度となる電費 1.3km/kWh 程度の燃料電池ゴミ収集車を開発し、実際のゴミ収集に運用することで実用性や CO2 削減効果を検証する。70MPa 水素に対応した 1 充填当たりの走行距離 100km の燃料電池ゴミ収集車を地域に普及させることにより、CO2 排出削減を実現する。
個別分散空調機向け小型高精度オンサイト性能評価システムに関する技術開発	東京海洋大学	関西電力(株)、(株)エネゲート	業務用建物で消費されるエネルギー起源のCO2排出量低減のため、これまで測定が困難であった個別分散空調システムの運転性能をオンサイト・リアルタイムで評価可能な低コストマイコンボードを開発する。得られたエネルギー性能に関する運転情報の視覚化やデータ蓄積を行い、ユーザーや設備設計者らに幅広く情報を開示することで、運転状況の改善や適正な空調機器への転換など、ユーザーの省エネ行動を誘発し、CO2排出削減につなげる。
住環境情報を活用した省エネサポートシステムの開発・実証	北海道ガス(株)	(株)住環境計画研究所、(株)日立製作所	家庭分野における熱エネルギーの省エネ化を促進するため、特に暖房需要の多い寒冷地の住宅を対象に、従来の電気エネルギーに加え、個別消費者の温熱環境（温度、湿度、輻射等）と熱エネルギーの利用状況との関係を分析し、暖房熱源機を自動制御するシステムを開発するとともに、心理学・行動経済学に基づき消費者にフィードバックを行うことにより、消費者の省エネ行動を誘発し、快適な住環境と CO2 排出削減を両立する。
光透過型有機薄膜太陽電池を用いた施設園芸における CO2 排出削減技術の開発	京都大学	かずさ DNA 研究所、(株)大仙	作物の光合成に有効な波長を透過させることによって、太陽光による発電と高い作物生産性の両立が可能な変換効率 5% 以上、光透過率 30% の光透過型有機薄膜太陽電池を開発するとともに、既存の園芸施設にも設置可能な資材を開発してその適合性を検証することで、施設園芸における大幅な CO2 排出削減を可能とするゼロエネルギーファームを実現する。
CO2 排出量を半減する高効率熱回収型濃縮・乾燥システム (VCC) の開発	鹿島建設(株)	鹿島環境エンジニアリング(株)	産業部門の CO2 排出量の約 1% を占める濃縮・乾燥工程において、蒸気を回収し、圧縮機で昇温・昇圧してから蒸発熱として再利用することで、CO2 排出量を 50% 以上削減するシステムの開発・実証を処分場浸出水処理分野で実施する。更に、当該技術を他分野に展開することで、社会全体での CO2 排出削減を実現する。

<p>多原料バイオコークスによる一般廃棄物処理施設での CO2 排出量 25%削減の長期実証</p>	<p>(一財) 石炭エネルギーセンター</p>	<p>近畿大学、JFEエンジニアリング(株)</p>	<p>ガス化溶融炉方式の一般廃棄物処理施設で定常的に消費する石炭コークスをカーボンニュートラルな新燃料であるバイオコークスで一部代替することで、CO2 排出量 25%削減を実現する技術の実証を行う。また、2万円/トンの安価な多原料バイオコークス製造技術を確立し、更なる普及拡大による CO2 排出削減を実現する。</p>
--	-------------------------	----------------------------	--

※上記は採択時の状況に基づく内容であり、評価委員会の指示により内容に変更が生じることがあります。